



会報
むすび

第23号



皆様 に感謝して

栃木県青年神職むすび会

前会長 加藤直人

三月二日に開催されました、むすび会臨時総会におきまして上野武男氏（宇都宮二荒山神社権禰宜）を新会長に目出度く選出し、無事に大任を果たすことが出来ました。

ここに謹んで、むすび会の皆様、先輩諸兄に対し厚く御礼申し上げます。

会長に就任して、この二年間思い起せば色々なことがありました。私が特に忘れられないのが、平成十年八月末日におこりました、那須の大水害です。被害にあわれました方々には、心よりお見舞いを申し上げる次第であります。私もいちはやく現地へ赴き、被災状況を目の当たりにし、改めて、自然災害、天災に代表される自然の厳しさを

肌で実感しました。青年神職として素早い支援の行動をとられた会員の皆様には、心より敬意を表します。更にその支援活動の中心となられた北那須支部の皆様には、むすび会を代表致しまして、深く感謝申し上げます。

北海道沖地震、阪神大震災と雲仙普賢岳噴火、我々はここ十年の間に大災害を幾度となく経験しています。いざというときに必要なことは、日頃からの地域住民の団結なのではないかと私は考えます。そのためにも地域における神職の立場はとても重要であります。

各市町村の神社を中心としたネットワーク、各都道府県の神社を中心としたネットワーク、この二つの柱が滞りなく機能し

た時に、住み良い地域社会が誕生するのではないかと思います。

この那須大水害を通じて我々が行った支援活動が今後の全国の神社活動の活性化に一石を投じることができれば、幸いです。

又、神道青年全国協議会創立五十周年の募財活動におきましては、五十万円という多大なる目標金額を示され危惧をいたしておりましたが、先輩諸兄の厚い思いやり、そして栃木県神社庁長横瀬勝壽様をはじめ神社役員皆様のご理解を頂きまして達成できましたことは、栃木県青年神職むすび会として誇りであり、我々の神社界における立場を再確認した次第です。

上野新会長はじめ新役員の皆様は、むすび会創立四十周年へ

の橋渡しをする重大な責務を担っております。どうぞ、新役員の皆様に対しましては、むすび会員一致団結し、支援していただき、神道界のさらなる発展のために貢献されることを心よりご期待申し上げます。最後になりましたが、二年間本当にありがとうございました。





就任のご挨拶

栃木県青年神職むすび会

会長 上野武男

去る三月二日の臨時総会に於

て、加藤会長の後を受け会長に
選任されました。むすび会創立
以来、先輩方々により築き受け
継がれた伝統、又歴代会長のす
ぐれた人格と指導力を思うと、
その任の重さに身の引き締まる
思いです。微力ながらも会発展
の為に、精一杯頑張りたいと意
を新たにしております。

浅学非才の会長ではありません
が幸いにも副会長、事務局長、
役員、精鋭の方々でありますの
で、共にその使命と役割をはた
してまいりたいと思っております。

さて、私どもの四囲を見回す
と、教育、政治、経済等々社会
情勢は極めて厳しい方向に向か
っています。我が国伝統の精神

文化の著しい荒廃、この様な時
代こそ、伝統文化を受け継ぎ、
日本の繁栄と平和を守ってきた、
精神的基盤としての「神道」を
我々斯界の尖兵が、ひとりひと
り危機感を持ち、啓蒙してゆく
事が大切であると思えます。個
人では成し得ない活動をむすび
会の諸行事を通じ行い、自己の
研鑽を重ねて行きたいと思つて
おります。

折しも本年は、各県青年会の
母体でもあり、全国約三千五百
人の仲間で結成されております
「神道青年会全国協議会」が創
立五十周年の大きな節目の年を
迎えます。「次世代への継承」
を主題として左記の記念事業を
予定しております。

一、記念式典の開催

一、神宮への奉賛活動

一、靖国護国神社への奉賛活
動

一、世界平和祈願祭の開催

一、聖寿奉祝の碑北方領土の
碑祭典

碑祭典

一、神青協五十年史の刊行

一、子供向け教化冊子の作成
一、神道教化ビデオの作成等

当むすび会も、これら諸行事
に多方面に渡り積極的に参加し、

創立五十周年と言う先輩諸賢が
築かれた歴史の重みと志を感じ
取り、又会員相互の信頼を深め
次の世代へと、二十一世紀へと
新たな「一歩」を踏み出す力と
して行き度いと存じます。

会員一人一人が、会の主役と
しての気概を持ち、本会目的達
成の為、活動してまいりたいと

存じます。

神社庁をはじめ諸先輩、会員
諸兄には、今後ともご支援、ご
指導頂きますようお願い申し上
げます。



Ⅱ 栃木県北部災害Ⅱ

奉仕活動報告

平成十年八月の下旬、栃木県那須地方を中心とした集中豪雨により、那須町が多大な被害を被りました。我々、むすび会会員の奉仕するお宮にも被害がございましたが、お宮の倒壊等の甚大被害が生じなかつたことは幸いなことでした。

今回、むすび会として、微力ながらボランティアに参加し、救援物資を那須町にお届けいたしました。

被災当時、加藤会長のFAX



による救援物資寄付の呼びかけ文。また、ボランティアに参加した大前神社 佐藤権祐宜の報告書を中心に、むすび会の栃木県北部災害における活動の報告をいたします。

○加藤会長による救援依頼

平成十年八月二十六日、栃木・福島県境付近を中心とする東日本一帯で記録的な豪雨が発生しました。八月三十日、加藤会長からむすび会会員宛に支援依頼のFAXがありました。緊急にむすび会役員間で協議した結果についての報告、依頼でした。内容は

一、神社関係の片付け等の労働奉仕について、氏子さんの被害が甚大なので、神社関係の労働奉仕は要請があり次第、むすび会会員の協力を要請する。

二、義援金、救援物資の提供食料、日用品を募り、災害対策

本部に届ける。

であり、むすび会として至急、実行する旨が記されていました。

混乱の中の緊急のFAXであり、会員の全員にFAXが周りに、会員の全員にも有りましたが、わからないことも有りましたが、我々会員の一人一人も早い段階で、被災者の支援活動を行えました。

○義援金、救援物資の搬入

実施日 九月二日

参加者 加藤直人 星野芳典
中山光明 小林 靖
菱沼至広 野崎正之

【作業内容と所感】

むすび会加藤会長の報告より

むすび会会員より寄せられた救援物資と義援金を那須町災害対策本部に届けました。豪雨をもたらし雨雲も去り二次災害の危険性も減り、いよいよ復旧作業も本腰に入る頃。大変あたたかい状況でした。

災害対策本部へは黒田原神社の佐藤元典様に同行して頂き、那須町助役様への挨拶に伺いました。助役様より災害被害状況、

ボランティア活動状況等の説明を頂き、復旧へのお手伝いの依頼もございました。

その後、今回最も被害の大きかった地域の一つである沼野井地区の温泉神社薄井宮司宅を訪ねました。テレビ、新聞等の報道の通りこの地区は惨憺たる状況で、橋は流され、田畑には流木や石等が転がり、牛舎には牛が見あたらず所々で壊れた家の材木・牛の死体等を焼く煙が上がるのを目の当たりにしました。悲惨な光景でしたが、薄井宮司のお宅は無事であったことを付け加えます。

今後むすび会としても労力奉仕等、何らかの形で挙力していきたいと思えます。

被災直後の情景のすさまじさが伺えました。

○ボランティア活動

加藤会長の意向をうけボランティア活動に参加しました。

実施日 平成十年九月六日
作業内容 近所の川の氾濫で被害を受けたリンドウ畑の整備。

畑の整備。

【感想】

大前神社 佐藤 智則

集中豪雨で、那須町が大変なことになっていくとの報道を目にしたのは、八月二七日の夜で旧の手伝いをどのようにするか話し合いました。状況把握のため星野副会長、黒田原神社の佐藤祐宜さん等と連絡をとりましたが混乱の中、断片的な情報しか得られません。現状把握が最優先と云うことになり、雨足が弱まるのを見計らって、翌二十九日加藤会長が現場に向かいました。その当時はボランティア参加者は控え室で待機している状態。近辺の道路、特に川に近い道と山の間を抜ける道は通行止めになっています。ボランティア活動の窓口は那須町役場社会福祉協議会で、役場敷地内の講堂に受け付けがあり、そこから復旧現場に配属されるとの情報を掴むことができました。

明るく三十日の午後、雨が上がったので、八雲神社の小堀祐宜さんと共に、何か奉仕できれ

ばと思いつく方向に向かいました。

しかしながら、現段階での活動は救済物資の仕分けぐらいで、本格的な活動は二次災害危険防止のため水が引いてから行うとのことでした。その後、黒田原神社の佐藤祐宜さん、温泉神社の中山祐宜さんを訪ねました。佐藤祐宜さんは、お社の西側を流れる余笹川を指し、前は川筋が二本あったのに河川公園の造成によって一本にしたことも、この辺りの増水の要因ではないかと話されました。中山祐宜さんからは、温泉神社の高根沢祐宜さんと那須温泉神社の人見祐宜さんは地元消防団として不休で活動していること等知る限りの情報をお話頂きました。

九月六日には、水が引き日曜日でもあるので、ボランティア活動が盛んであるかと予想し、午前五時三十分集合した参加者と共に那須に向かいました。主要道路は通行止めが解除されており、順調に現地まで車を走らせました。

我々が奉仕いたしましたのはリンドウ畑で、作業はむすび会会員のみではなく、他の団体の

方々との合同で作業となりました。リンドウ畑は脇を流れる小川の氾濫により、栽培用の網や支柱となるパイプが薙ぎ倒され埋まっており、収穫前のリンドウの花（畑全体の三分の二）がすべて倒されている状態でした。これを掘り起こし分別して、網に不着した枯れ葉やゴミの撤去、流木や粗大ゴミの撤去作業をしました。他の団体の中にはボランティア作業に慣れていて、仲間内での統率が非常にとれている団体もあり、今後の参考にしていきたいと感じました。地元中学生は時折、歌を歌いながら作業をしていました。音楽の授業で歌った歌であるのか、一、二曲の歌の繰り返しではありま



ましたが、単調な作業の中で気持ちと和らいだのは私だけではないはずだと思えます。正味、六時間程の作業ではありませんが、被災者だけの為ではなく、自分自身の為にもなる、非常に有意義な時を過ごすことが出来ました。

作業が終え黒田原神社を参拝し、余笹川を見に行きましたところ、過日見た時と比べると川は水が引き、流れも随分穏やかになっていました。

対岸にある河川公園に目を向けると、そこでは親子連れが芝生の上でボール遊びをしています。まるで、平素の日曜日のようです。「地元の人なのに、自分に害がなければ無関心人が多くなった。」と言った六十歳程度のボランティア参加者の言葉が重く感じられました。

* * *

災害後から半年が過ぎ、報道等もあまり聞かれなくなりました。しかし、田畑の被害状況の悲惨さが実際に現れてくるのは収穫の季節を迎える頃ではないでしょうか。長期的な支援も大切なことだと感じます。

とちのみ学園神棚祭

日光二荒山神社 町井康祐

去る平成十年五月二十一日とちのみ学園神棚祭・社会福祉法式典が斎行された。

当会より加藤会長以下三名が参列しました。

本年は日光二荒山神社が神棚祭奉仕の当番ということもあり当社中麿祢宜斎主のもと、むすび会員でもある伊原権祢宜が奉仕し、厳肅に祭典が斎行されました。

その後、場所を佐野市のホテルマリアージュ仙水に移し、創立四〇周年記念式典が斎行されました。

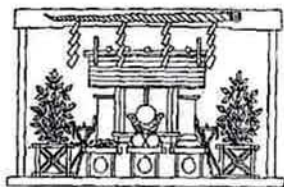
式典では「とちのみ会」の佐野理事長より式辞が述べられ、島田理事より経過報告が述べられました。

現在とちのみ学園では、精神薄弱者福祉法に基づき、家庭における保護と養護及び訓練に欠ける精神薄弱者を受け入れ、個々に必要な処置、援助を行い、将来独立自活の知識技能を身に

つけることを目的とされています。

今年創立四〇周年を迎えた「とちのみ会」は昭和三十三年一月二十日に設立されたこの会が経営主体となり、翌三十四年五月一日に精神薄弱児収容施設として「とちのみ学園」の設置認可を受け開園し、平成八年十一月一日に伴い更生施設に転換されています。

社会福祉法人「とちのみ会」の創立四〇周年誠におめでとうございます。むすび会々員一同心より御祝辞申し上げます。



植樹祭

中村八幡宮 中里元彦

去る平成十年十月五日、栃木県青年神職むすび会では、恒例となります植樹祭が実施されました。本年度は芳賀方面へ向かい、茂木の八雲神社、益子の鹿島神社、真岡の中村八幡宮と栃木県神社総代連合会会長の塚本美代次様の事業所内の神社に各二本ずつの真神を植樹しました。

当日朝、まず神社庁において星野副会長以下祭員により植樹奉告祭が斎行され、加藤会長以下会員が参列しました。

その後、全員で各神社へ向かい、境内に神を植え、当むすび会の名を残し、小堀宮司様、小幡宮司様、塚本会長様より、多大な歓迎と感謝を受け、また由緒等のお話をお聞かせくださいました。

植樹を終えた後は、懇親会が催され、残念ながら植樹を奉仕できなかった会員も集まり、親睦を深めました。

神は常に繁っていることから

繁栄を象徴する栄木、神域と人間界の境を示すことから境木といった語源があります。我々神職は、国家の隆昌、神社界の益々の繁栄を願い、御祭神の下、仲取持として、日々の奉仕に励みたいものです。

本年度はお手数ながら、中村八幡宮にまで植樹していただき宮司以下関係者一同、大変感謝しております。今後も植樹祭の活動を続けられますことを願います。



初穂曳参加記

日光二荒山神社 伊原弘之

今年で二十七回目を迎える「初穂曳には、むすび会より、伊原、田中の両名で奉仕をさせて頂いていただきました。

十月十五日正午、神宮会館の大講堂において結団式参加の後、バスで伊勢市内へ移動し、JR山田上り駅近くの商店街から初穂曳が開始されました。当日は生憎の雨天であったので、商店街のアーケードを抜ける頃には本降りとなり、「エンヤ、エンヤ」

の掛け声も一層、気合いのはいったものとなりました。一日神領民として地元神領民と共に約二キロの道の



りを外宮領まで奉曳する間にも、各地からの奉仕者と交流するところができました。

外宮北御間が見えた頃には最高に盛り上がり、午後三時三十分無事、奉曳車は到着、それぞれが、各地の神社の神饌田で耕作された「イセヒカリ」の初穂を手に、五丈殿に奉納し奉曳が終了致しました。

その後、外宮にて神嘗祭の由貴夕大饗祭を奉拝させて頂きました。夜十時過ぎ、浄間に包まれた中、松明のかがりを先導に祭主、大宮司以下の神職が正殿へと進まれ、神嘗祭が始まると、参列者の緊張を肌で感じ、また、神楽の歌、箏の音が聞こえてくると、ひととき神代そのままの幽玄な世界に浸ることができました。

翌日は内宮御垣内を参拝して帰路に着きました。

この貴重な奉仕を与えて下さいました方々に感謝致します。

会員親睦旅行を終えて

今宮神社 山田和之

毎年行われている、親睦旅行は、委員長にとって、頭を悩ます一つである。一人でも多く参加していただく為には、幾度となく、会議を持ち、若い会員諸々等の意見を取り入れて、納得した楽しい一日を、サポートしなくてはならないからだ。私にとって、役をいただくのは、初めての事であったので、当初戸惑う事ばかりの連続であったが、旧年、茨城方面の旅行を実施し、内容的にも満つる事が出来たので、今回の旅行については、旧年以上に努力をしたつもりである。さて、今回の旅行の目的は、会員各位の強い結びを意識し、会員のみ旅行で、スキー又は、温泉にて親睦を図ろうとし、行先を福島方面と決めて、会議に提案した。その結果議案が通り、平成十一年三月八日、実施に至った。当日、宇都宮二荒山神社に、早朝六時集合出発とし、教化研修委員会の協力で、福島県

田島町、田出宇賀神社に向かった。約二時間半の道程で、八時三十分無事到着し、直に、正式参拝をお願いした。正式参拝後、例祭「祇園祭」の説明があった。以前、NHKの番組で、「ふるさと」の伝承を録画しておいたビデオテープを車中テレビで流しておいたので会員各位、祭事の知識があり、楽しく室井宮司と共に、質問や写真撮影等の一時を研修できた。その後に、スキー組「台鞍山」温泉組「山口温泉」から289に別れて親睦を深め、午後三時三十分、帰路に向かった。宇都宮に着いてからは、会員諸々共に直会を行い、充実した一日を送る事が出来た。近頃、会員も年齢が疎らで、何か忙しい毎を送り、会議、行事等に参加出来ない会員「私も含む」も多くなつて来ているが、出来るだけ参加して、個性を出して、未来にむすび会を伝承していききたいものである。

会
員
神
社
紹
介

湯
泉
神
社

宮司 野崎 正之

【鎮座地】

矢板市沢三五一番地

【御祭神】

大己貴命 少彦名命

【由緒沿革】

当社の鎮座する沢村（矢板市沢）は矢板市の東にあつて古くは日光（北）街道の宿場の一つであつた。北から東にかけて箒川によって対岸薄葉（大田原市）と境しているが同じく箒川西部で地続きの稗田村（矢板市豊田）、成田村（矢板市成田）と共に、那須郡に属し、古くから那須氏の支配下にあつたといふところである。この地名は箒川一帯の沢の多い低地一帯を総称したため沢村と名づけられたものと考えられる。中世文治三年那須資隆の七男満隆がこの地に築城し、地名沢村をとつて、姓としたものであつて城の名も沢村城と名

づけられた。

本社は正治年間の創設にして領主沢村七郎満隆の勧請とされ弘化年間まで字班の目に鎮座ありしが祠宮邸内に移遷し後、故ありて舊境内に復鎮する。慶應年間現今の地に奉遷し今日に至る。

湯泉神社・温泉神社と称する社は那須郡に八十一社、塩谷郡にももと那須家の領分内に三十



中
嶋
神
社

禰宜 國友 和 広

【鎮座地】

栃木県宇都宮市中島町八一四

番地

【御祭神】

大山祇命

宇都宮市南部に位置する中島町の中程に鎮座する中嶋神社は、由緒、沿革は定かではないが、古くから五十戸足らずの集落の人達により、村の鎮守様として大切に守られ、御神域として威厳を保っている。

最近、宇都宮の人口が増大するに従つて、中島町は勿論のことと神社界隈も都会化の波に押され、道路が整備されると共に住宅地が造成され、日々賑わいが増している。

又、近くには北関東横断道路が通りインターが出来る。これらの工事が始まつてから

社あるところからみても那須家が信仰の神社であつたばかりでなく、那須郡のいたるところに

温泉の湧出する自然の不思議に驚異を感じ、神格として祭られたうちの神社である。

は、この地域一帯に古代遺跡がかなり多く発掘され、古くから人々の集団生活が営まれていた事が分かつてきた。

そしてそこには必然的に神社の存在意義が生まれ、中嶋神社は、その地域の中心の祈りの場であつたのではないだろうか。社は小さいが、古代のロマンを秘めた神社でもある。



第四回 神青協 一都七県協議会総会

神青協一都七県協議会の第四回総会が、去る平成十年六月二・三日の両日に渡り、埼玉県・浦和東武ホテルで開催され本県・稲一都七県協議会監事、当会より加藤会長を始め十一名が出席しました。

まず、当番県篠田会長が挨拶次に地区理事の齋藤氏が挨拶し来賓紹介の後、埼玉県社庁長



藪田様、竹本支部長、篠神青協会長より祝辞を賜り議事に入りました。

審議事項では平成九年度事業報告などが熱心に審議され、引き続きいての各単位会報告では、各県独自の事業を展開されていることがうかがえる事業計画が報告された。

最後に「明年迎える神青協創立五〇周年に際し、一致団結して各種記念事業の完遂に協力し更にその主題に掲げた「次世代への継承」の趣旨に準処して、日本本来の姿と先輩諸賢の足跡とを、後世に正しく伝承していくことに尽力する」ことを総会決議として閉会された。

総会終了後、元ミス日本・サピオ記者の大高美貴様より「北京・イスタンブール ユーラシア大火車横断一万キロ飽食ニッポンの忘れ物」と題する記念講演がおこなわれた。

夏期セミナー

八月二十四日、二十五日の二日間、神社本庁大講堂を会場として、平成一〇年度夏期セミナーが九十六名の参加をもって開催された。

本年の主題を、「青少年健全育成とその実践」とし、明星大学教授、高橋史郎先生の特別講演をはじめ、葦津泰國先生（神社新報社社長）、林潔先生（白梅学園短期大学教授）、三沢直子先生（東京都精神医学研究所心理カウンセラー）、上田賢治先生（國學院大學学長）、の御講義を頂いた。

高橋、葦津両先生は、戦後教育の問題点を指摘し、日本を再生するには、感性の豊かさを養い自然との共生のもと、日本独自の道を模索しなければならぬ。その為の第一歩として、青少年に対する「心の教育」の重要性を説かれた。

林先生は、青少年が社会的現実を認識しなければ、真の意味

の自立はありえない、と言及された。

三沢、上田両先生は、地域社会に於ける神職の在り方を説かれた。地域再生に於ける重要な立場にある神職は、その立場を十分に理解し、若い親とその子供を中心に関係の大切さを教えなければならない。又、地域社会の形勢が変化をとげた現代社会では、神道も個人信仰を視野に入れて地域再生を図らなければならない。

その具体的手法として、カウンセリングを取り上げるも、確かな指導と知識を身につけ経験を積み重ねば、本来あるべき神社形態である伝統的共同体としての地域社会の再生は難しい。と力説された。

青年神職として今、我々が何をすべきか、各人に新たな方途を示し、セミナーは盛大にその幕を閉じた。

神青協中央研修会

● テーマ 「源（みなもと）」

祭の心と信仰の原点」

● 日時 二月二十三日・二十四日

● 会場 長野ホテル国際21



去る二月二十三日・二十四日の両日、平成十年度中央研修会が開催され、今回は「源（みなもと）」祭と心と信仰の原点」をテーマに、東海五県神道青年

連絡協議会が主管し、長野県神道青年会の担当で、長野ホテル国際三を会場に行われ、我がむすび会からも、加藤会長以下五名が出席しました。開講式は神宮・皇居遥拝、国歌斉唱に続き、篠会長、担当地区齋藤安彦理事、来賓代表として長野県神社庁長（松本副庁長代理挨拶）の方々よりご挨拶を賜りました。講演では諏訪大社澁川宮司の「祭りと心―諏訪の御柱祭」と題しての基調講演ではじまり、信仰の理論体系化としての神学に対し、宮司様が歩まれたそれぞれの神社時代等の取り組みに触れ、「自分自身の信仰体験を基にして培った神学は他の宗教

に比しても決して劣るものではなく、自身をもってそれぞれの神学の樹立に努力して欲しい」と述べられました。続いて第一講では「木遣りの心」と題して、長年に渡り諏訪市木遣保存会の



会長を務め、御柱大祭に欠かせない伝統ある木遣の保存と後進の指導にあたられている小池共平会長が御柱祭のビデオと木遣りを実演しながら講演され、木遣りに始まり木遣りに終わる。氏子が率先して行なう祭と、祭に参加してみなければ良さがわからない」と述べられた。翌日は「祭りと信仰・技術の伝承」と題し、先祖代々社有林である御小屋山の管理を受け継ぐ山作・原光秋氏・諏訪大社大総代を務め平成十年度諏訪大社御柱祭で曳行部長を務めた両角照雄氏また同氏の長男で若衆代表で御柱の曳き立に先頭をきって従事した両角力氏が講師とな

り、石和大実行委員がコーディネーターとして、パネルディスカッションが行われた。

今回の研修に参加し、祭とはそれぞれの地域の文化・伝統・信仰とは言葉にあらわせず、肌で感じて継承されているも、肌で感じて継承されている様な気がした。意味を深く考えず、自然に純粋に楽しいからとかうれしいからとかそれが原点ではないではなからうか。



●新役員決定される(去る3月2日の臨時総会において左記の通り決定しました)

平成十一年度むすび会役員・幹事氏名

【役員】

会長	上野 武男	宇・二荒山神社	権祿宜
副会長	星野 芳典	乃木神社	権祿宜
副会長	阿部 修一	古峯神社	権祿宜
事務局長	人見 文治	温泉神社	祿宜
會計	伊原 弘之	日・二荒山神社	権祿宜
庶務	宇賀神直人	大田原神社	祿宜
監事	堀口 邦夫	栃木県神社庁	主事
監事	大野 房典	宇・二荒山神社	権祿宜
監事	小林 靖	三宮神社	宮司
議長	菱沼 至広	鷺宮神社	祿宜

【幹事】

宇河支部	小島 宣紀	檀原神社	祿宜
宇・二荒山神社	荒井 和宏		権祿宜
芳賀支部	佐藤 智則	大前神社	権祿宜
塩谷支部	石川 安一	安住神社	権祿宜
北那須・南那須支部	清水 寛明	高久神社	祿宜
上都賀支部	田中 教文	滝尾神社	祿宜
日・二荒山神社	香取 正義		権祿宜
古峯神社	篠田 薫		権祿宜
下都賀支部	刀川 治久	磐裂根裂神社	祿宜
安佐・足利支部・唐沢山神社	佐野由希子	唐沢山神社	権祿宜

むすび会各種委員会正副委員長

【事業委員会】

委員長	小幡 正之	鹿島神社	宮司
副委員長	荒井 和宏	宇・二荒山神社	権祿宜

【広報委員会】

委員長	野崎 正之	宇・二荒山神社	権祿宜
副委員長	小堀 真洋	八雲神社	祿宜

【神道情報処理特別委員会】

委員長	江部 幸男	平出神社	祿宜
-----	-------	------	----

【教化研修委員会】

委員長	永田 弘幸	根裂神社	宮司
副委員長	福田 財大	今宮神社	権祿宜

【親睦渉外委員会】

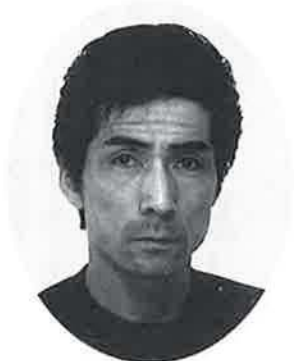
委員長	香取 正義	日・二荒山神社	権祿宜
副委員長	田中 教文	滝尾神社	祿宜

平成十年度栃木県青年神職むすび会事業報告

- 4月8日 役員会、監査 栃木県神社庁
- 4月22日 神道青年全国協議会定例総会 神社本庁
- 4月27日 第一回むすび会役員、幹事、正副委員長会 宇都宮二荒山神社
- 4月28日 第一回神青協一都七県協議会定例会議 明治神宮
- 4月28日 神社祭典奉仕 栃木県護国神社
- 5月19日 第一回幹事会、平成十年度むすび会定例総会 宇都宮二荒山神社
- 5月21日 とちのみ学園神棚祭り とちのみ学園
- 6月2～3日 第四回神青協一都七県関東地区総会 埼玉県浦和市
- 6月26日 那須御用邸勤労奉仕(教化委員会と合同) 那須御用邸
- 7月27日 第二回神青協一都七県協議会定例会議 靖国神社
- 8月12日 第二回むすび会役員、幹事、正副委員長会 宇都宮二荒山神社
- 8月24～25日 夏期セミナー 神社本庁
- 8月29日 栃木県北部豪雨災害現地情報収集、調査 栃木県北部豪雨災害現地支援ならびに情報収集、調査
- 9月2日 植樹(中村八満宮、鹿島神社、八雲神社) 宇都宮市
- 10月5日 お月見の会 宇都宮市
- 10月7日 第三回神青協一都七県協議会定例会議
- 10月16～17日 初穂曳 神社本庁
- 10月27日 神道青年全国協議会臨時総会 神社本庁
- 10月29日 第三回むすび会役員、幹事、正副委員長会 宇都宮二荒山神社
- 11月9～10日 会員神社祭典奉仕 大前神社
- 11月24日 親睦ゴルフ会(氏青合同) ホウライカントリークラブ
- 12月3日 第四回神青協一都七県協議会定例会議 横浜開洋亭
- 12月8日 退会者慰労、昇級者祝賀会ならびに忘年会 宇都宮市
- 12月23日 むすび会役員、幹事会 宇都宮二荒山神社
- 1月26日 第四回むすび会役員、幹事、正副委員長会 宇都宮二荒山神社
- 2月8日 第五回神青協一都七県協議会定例会議 神社本庁
- 2月11日 建国記念パレード 宇都宮二荒山神社前
- 2月18日 第五回むすび会役員、幹事、正副委員長会 宇都宮二荒山神社
- 2月23～24日 神青協中央研修会 長野県長野市
- 2月24～25日 栃木県青年神職むすび会研修会 長野県野沢温泉
- 3月2日 役員会、幹事会、むすび会臨時総会 宇都宮二荒山神社
- 3月8日 県外神社視察、家族親睦旅行 福島県田島

新 入 員 紹 介

見 目 守 生



住所：芳賀郡芳賀町大字芳志戸

一、九七四―二

生年月日：昭和36年2月4日

奉務先：星宮神社

趣味：ゴルフ、スポーツ

特技：現在特になし

座右の銘：我事において後悔を

せず

現在、地域社会において地元神社の存在が、住民にとって遠いものになって来ている。大々神楽等の伝統芸能保存会を通し、若い年代を中心に、もっと地元神社に目を向け、足を運ぶよう活動していきたい。

篠 原 祐 一



住所：塩谷郡氏家町草川三四―

四

生年月日：昭和38年5月7日

奉務先：大前神社

趣味：旅行、特技：立ち読み

座右の銘：歴史学は未来学でな

ければならない。

好きな女性のタイプ：夏目雅子

通常は栃木県埋蔵文化財センターに勤めております。考古学について何か御座いますれば、御気軽に御声を御掛け下さい。神道考古学を専門と致しておりますので、神道史の面で微力を尽く所存で御座います。宜しく
お願い致します。

國 友 和 広



住所：宇都宮市今泉町六二三―

七

生年月日：昭和45年4月28日

奉務先：中嶋神社

趣味・特技：ゴルフ、スキー

座右の銘：努力

好きな女性のタイプ：気持ちの

優しい女性

神職の道を歩み出し早一年以上経過し、日々努力の毎日です。また経験、知識共に未熟者ですので、諸先輩方の指導を仰ぎながら、頑張っていきたいと考えております。



中里元彦

住所：真岡市中五六〇
生年月日：昭和47年5月22日
奉務先：中村八幡宮
趣味・特技：オリエンテーリング

座右の銘：迷わず行けよ、行けば分かるさ
好きな女性のタイプ：スピード好きな女性のタイプ：スピード

本年度から神職として奉仕することとなり、当むすび会に入会しました。まだ未熟ですが、先輩方の教えをいただき、明鏡止水の精神で神社界に貢献したい所存です。



佐野由希子

住所：佐野市富士町一四〇九
生年月日：昭和48年3月22日
奉務先：唐沢山神社
趣味・特技：スキー、英会話

座右の銘：悩むより実行
好きな女性のタイプ：厳しさの中にも優しさがありユーモアのわかる人

現在は週の半分東京でニュースキャスターの仕事をしており、お宮の仕事が余りできませんが、近い将来未来のパートナーとともに神社発展のため努力して行くつもりです。



橋口幸司

住所：小山市西城南一四一
タウニオーツパート4 二〇二号
生年月日：昭和49年12月3日
奉務先：須賀神社
趣味・特技：音楽鑑賞、ドライブ

座右の銘：心して心 心にあらず好きな女性のタイプ：やさしい人 思いやりのある人

現在、日本はスピード時代となっております。人々はスピードに追い回され、ゆとりの無い生活を送っております。そうした中、私は古来の伝統・知恵を大切に、ゆとりややすらぎを与えられる神職にならなければと考えっております。



佐藤洋誠

住所：日光市山内二三〇二一二
二荒山荘
生年月日：昭和49年12月8日
奉務先：日光二荒山神社
趣味・特技：旅行

座右の銘：聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥
好きな女性のタイプ：思い遣りのある人

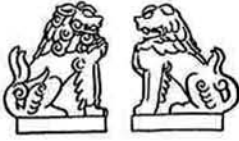
昨年三月から日光二荒山神社に奉職させて頂いています。佐藤洋誠（ヨシノブ）です。未熟ですが、日光二荒山神社、そして神社界のために、自分なりに頑張つて貢献して行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

退会者

氏名…加藤直人
奉務先…大前神社
生年月日…昭和33年9月22日

氏名…長和彦
奉務先…足利八幡宮
生年月日…昭和34年3月22日

氏名…山杉勝敏
奉務先…八坂神社
生年月日…昭和33年5月10日



祝ご誕生

氏名…菱沼至広
第二子氏名…拓己
生年月日…平成11年1月5日

親からの希望…どんな事にも喜びを見出だせる人になって欲しい。

氏名…刀川治久
第二子氏名…仁来(みずき)
生年月日…平成11年1月23日

親からの希望…人に迷惑をかけず人に好かれ、友達が多い、元気な子に育ってほしい。また自分で自分の人生を切り開いて進むべき道を見つけてくれる人になってほしい。

平成10・11年度の二年間にわたり「会報むすび」を編集してまいりましたが、どうか二年間の任期を終えることが出来ました。先輩諸兄より、御指導をいただき誠にありがとうございました。また、今回の表紙の写真は、黒田原神社の佐藤祿宜様に御協力を頂き、那須の大自然を載せてみました。

【編集委員】

- 委員長 伊原弘之 日・二荒山神社
- 副委員長 野崎正之 宇・二荒山神社
- 委員 小堀真洋 八雲神社
- 町井康祐 日・二荒山神社
- 狐塚泰久 大河原 肇
- 古峯神社 小島宣紀
- 榎原神社 神山拓之
- 神明宮

編集後記

はじめに、今年も、会報むすび第二十三号を関係各位の皆様方の御協力のもとに発行出来ましたことを厚く御礼申し上げます。

又、広告の協賛として、各社の皆様には、早々に御協賛を賜り心より感謝致します。

平成10年度で特に忘れることが出来ないことは、那須の大洪水であったと思います。被害にあわれました方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

あらためて、自然災害の厳しさ、恐ろしさを実感しました。

我々青年神職は、今回のように素早く支援行動をとれるよう心がけて行かねばならないと思います。

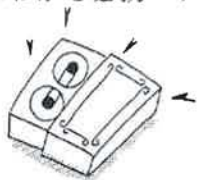


栃木県青年神職むすび会事業のご案内

神棚のまつり方ビデオ

定価 2,000円

知っているようで知らなかった神棚のまつり方を、やさしく解説した神社界待望のビデオ、家族全員で神棚をまつる意義、まつり方がアツというまにわかる必携ビデオ。(約 20分)



企画製作
企画監修
指導協会
推 薦

栃木県青年神職むすび会
栃木県神社庁教化委員会
栃木県神社庁
神道青年全国協議会

ご朱印帳

定価 1,000円

栃木県内主要約100社の鎮座地、連絡先を地図とともに記載各神社参拝の折、ご活用下さい。



神社めぐり

定価 1,800円

地域の神社の歴史と文化を身近に感じるこの一冊、県内神社めぐりの本です。



● お申込み先 ●

栃木県青年神職むすび会

〒320-0015 栃木県宇都宮市八幡台12-24

栃木県神社庁(担当 堀口)

TEL 028(625)2011

FAX 028(624)3217

広告協賛者一覧

ご協賛ありがとうございました

創業90余年の御信用

おみくじ機 製造販売
おみくじ

(有)女子道社

〒745-0302 山口県都濃郡鹿野町
TEL 0834-68-2001
FAX 0834-68-2958

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念奉製

御一報次第カタログ御送り致します。

 グリーン産商株式会社

代表取締役 柚木 忠

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
電話 大阪 (06) 702-6009番代
FAX 大阪 (06) 797-5896番

県内各神社様、工事拝命先(順不同)

日光東照宮	矢板木幡神社
日光二荒山神社	小川温泉神社
宇都宮二荒山神社	足利権崎八幡宮
真岡大前神社	佐野人丸神社
大田原那須神社	下野一社八幡宮
西那須野乃木神社	祖母井神社
氏家今宮神社	足利八雲神社
足利星宮神社	



株式会社
小西美術工芸社

〒321-1431 栃木県日光市山内2362 TEL 日光(0288)54-1198(代)
〒108-0074 東京都港区高輪1-5-22 TEL 東京(03)3447-1481(代)

営業品目

木札・紙札・熊手・絵馬・守護矢
金襴錦守・縁起物入おみくじ・各種ステッカー

おまもりの奉製

株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県下都賀郡藤岡町藤岡213-7
TEL(0282)62-1010(代表)
FAX(0282)62-2061

各種授与品、記念品奉製

金襴錦守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
電・話 水戸 (029)251-2051(代)
FAX 水戸 (029)253-5844

授与品奉製

伊勢の



株式会社 神路社

〒516-8611
伊勢市岩渕二丁目5番29号(私書函26号)
TEL 0596-24-5858(代表)
FAX 0596-24-5110

全国各神社御用達

神符・守札・木札・ビニール守・錦守・集印帳
交通安全守・御守袋・守護矢・ステッカー
奉書紙・書道半紙・画仙紙・色紙・他

創業100年 真心で奉仕する

 **今村紙業株式会社**

代表取締役 今村 力男

〒409-3601 山梨県西八代郡市川大門町6, 237-11
電話 0552(72)0514(代)
FAX 0552(72)8818

宮内庁・神宮司庁・神社本庁 御用達

株式会社  **井筒**

本社 京都市下京区油小路通六条上る(〒600-8503)
電話(075)341 3341(代) FAX(075)341-7902
東京店 東京都新宿区三栄町11-6(〒160-0008)
電話(03)3357-4800(代) FAX(03)3357-4805
福岡店 福岡市博多区東公園2-31(吉塚駅前)(〒812-0045)
電話(092)651-9456(代) FAX(092)631-0835

— 創業80年 —
早く・安く・美しく
カラーカタログ
おまかせ下さい

- プランニング
- DM・チラシ
- ポスター
- カタログ
- パンフレット
- ハガキ
- 名刺



総合印刷
株式会社 **杉山印刷**

〒321-4325 栃木県真岡市田町2223
☎0285-82-2035(代) FAX.0285-83-2345

カザリシ
社寺専門店(御用達・鋳師)
屋根銅板葺 飾金具工事

有限会社 **カザリカナ**
鈴木鋳金具工芸社

〒321-1412 栃木県日光市東和町57-1
TEL0288(53)1121
FAX0288(54)3263

各種鈴緒・合織注連縄製造
野州麻・中国産麻販売


(有)モミヂヤ

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
TEL 0120-22-1312
FAX 0282-22-1387

創業130年

各種御神符・守札
その他授与品全般

湊御神符奉製所

 株式会社 **湊**

(伊勢市神宮会館前) 〒516-0025
電話 (0596)22-2442(代表)

全国神社御用達

神社用品全般調進所

有限会社 **平石装束店**

〒260-0001
新館 千葉市中央区都町 1254-27
TEL 043-231-5774
FAX 043-231-3715

神輿・太鼓・神具

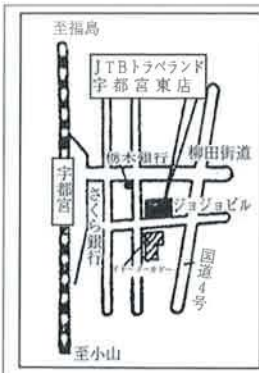
製作直売(カタログ進呈)

1尺8寸、2尺、3尺、4尺、ダンジリ、
その他何でもご一報下さい。

大阪府神社庁御指定・徳島県神社庁御指定

有限会社 **青山みこし店**

本社・工場 徳島市春日1-2-19 〒770-0002
TEL(0886)32-1456・FAX(0886)32-7424



旅行のご相談からお申込みまで、皆様のお役に立つ当店をご利用ください。

お申込みは <受託販売>

028(636)2945

FAX 028(636)2885

**JTBトラベランド
宇都宮東店**

— 土日も営業 —
休業日：火曜日
営業時間：10:00～19:00
宇都宮市東宿郷6-8-18 〒321-0953
ジョジョビル

海外 ハネムーン
家族旅行
グループ旅行



信用と品質の



祈りをかたちに
ハセガワ

祈りをかたちに

神社授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川 和夫

本社 〒114-0004 東京都北区尾崎3-20-13 TEL 03-3912-5161(代表) FAX 03-3912-3131
草加営業所 〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL 0489-21-1221(代) FAX 0489-21-1515

神社仏閣奉製品メーカー

(有)ときわ奉製

水戸市河和田町419

TEL (029) 251-1421(代)

FAX (029) 251-1608



伊勢名物

岩戸餅

お伊勢参りのお食事とおみやげは

宇治橋より30秒!!

伊勢内宮前

岩戸屋

URL <http://www.iwatoya.co.jp>

E-mail iwatoya@mail.iwatoya.co.jp

〒516-0024 伊勢市宇治今在家町58番地

☎(0596)23-3188(代) FAX(0596)28-1322



神社本庁 御用達
各神社

- 交通安全御守護
- 御参拝記念品
- 開運招福鈴
- 御社頭授与品

立案調製致します。

◆技術と信用◆

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1

TEL. 03-3814-1811 FAX03-3818-8332

総合印刷

NP 株式会社 中津印刷所

〒321-1406 栃木県日光市松原町320-1

TEL (0288) 54-1529

FAX (0288) 53-0850

絵馬・御札・神社授与品専門店

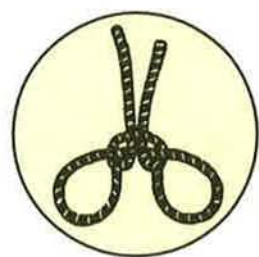


株式会社 晃栄商会

代表取締役 小杉高士

〒321-1421 栃木県日光市所野1388番地

電話0288(53)4186 FAX0288(53)4488



目次

前会長挨拶	2
会長挨拶	3
栃木県北部災害	4
とちの実学園神棚祭	6
植樹祭	6
初穂曳参加記	7
会員旅行	7
会員神社紹介(湯泉神社・中嶋神社)	8
神青協一都七県協議会	9
夏季セミナー	9
中央研修会	10
役員・幹事・各種委員会正副委員長名簿	11
平成十年度事業報告	11
新入会員紹介	12
第一子誕生・退会者	15